



2023年5月17日

各 位

会 社 名 株式会社キューブシステム
代表者名 代表取締役 社長執行役員 中西 雅洋
(コード番号 2335 東証プライム)
問合せ先 上席執行役員 社長室長 北垣 浩史
(TEL. 03-5487-6030)

当社取締役会の実効性評価に関する評価結果の概要について

当社は、コーポレートガバナンスの充実を経営上の重要課題と捉え、持続的な成長と中長期的な企業価値向上を目的に、事業年度ごとに取締役会の実効性に関する分析・評価を行っております。この度、2022年度における取締役会の実効性評価を実施いたしましたので、その結果の概要を下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 評価のプロセス

取締役会の任意の諮問機関であるサステナビリティ・ガバナンス委員会の指示により、サステナビリティ・ガバナンス委員会事務局が2021年度評価結果に対する改善施策の棚卸を実施するとともに、すべての取締役・監査役（以下、役員という）に対し取締役会の実効性に対するヒアリングを実施しました。サステナビリティ・ガバナンス委員会は、2022年度の実効性評価の運営状況およびヒアリング内容の報告を受け、取締役会へ今後の改善に向けた提言を行いました。

取締役会は、サステナビリティ・ガバナンス委員会からの提言を受け、ガバナンスに対する課題を共有し、取締役会の実効性を高めるために必要な改善策について十分な議論を行いました。

2. 評価の方法

評価に当たっては、すべての役員に対し、個別インタビューを行っております。

〈インタビュー項目〉

- (1) 取締役会の構成と運営
- (2) 経営戦略と事業戦略
- (3) 企業倫理とリスク管理
- (4) 業績モニタリングと経営陣の評価・報酬
- (5) 株主等との対話

その他、ガバナンス全般に関する自由な意見を求めました。

3. 評価結果

前述の評価プロセスにより、ヒアリング項目全般に亘り概ね適切であることが確認され、取締役会の実効性は確保できていると評価しました。

4. 2022 年度改善策の実施状況

2022 年度は監督機能の強化として「社内外の環境変化を踏まえた採用や人事制度、人材戦略のあり方」「投資案件の審議機関である投資評価会議の担う統制プロセスの妥当性や運用の状況」について、サステナビリティ・ガバナンス委員会や取締役会で議論の場を設けることにいたしました。

議論の対象として取り上げたテーマは以下のとおりです。

<サステナビリティ・ガバナンス委員会で取り上げたテーマ>

- (1) リテンション施策について
- (2) 投資評価プロセス (R&D)、投資評価プロセス (投資事業)、M&A の考え方について

<取締役会で取り上げたテーマ>

- (1) 同業他社人的資本経営への取り組み状況
- (2) 人事制度改定方針
- (3) 全社人材育成進捗状況

5. 実効性向上に向けた今後の取組み

取締役会は、市場・技術などの変化を踏まえた事業ポートフォリオの最適化、経営資源の適切な配分などの中長期の事業戦略・事業計画について一層踏み込んだ議論を行いたいとの要望を受け、更なる実効性の向上に向けて、以下の取組みを実施していくことを決定いたしました。

- ・ 来年度開始する第 2 次中期経営計画の立案に当たって、適切なタイミングで取締役会（又は、サステナビリティ・ガバナンス委員会）において議論・検討が行えるよう、スケジュール化を行う。
- ・ 代表取締役社長執行役員は第 2 次中期経営計画立案方針として、マテリアリティ、目標とする財務・非財務指標（財務指標には資本収益性に関する指標を含む）、事業・人材戦略の骨子を取締役に提出し、取締役会は独立した客観的立場から、戦略の方向性について議論・検討を行う。

以 上